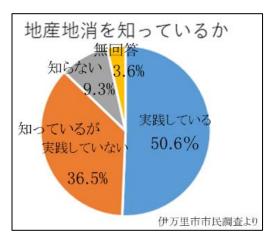
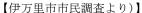
今こそ集え食のチカラ!地域で創る伊万里サステナブルシティ計画

佐賀県立伊万里実業高等学校 生物科学科 久保田 遥菜

1. はじめに

私たちの住む佐賀県伊万里市は九州の西部に位置し、海と山に囲まれた自然豊かな町です。伊万里ブランドとして名高い伊万里牛や伊万里梨などの豊かな食文化を誇る伊万里市は、これまで地産地消の推進や食文化の継承、食育の推進に力を入れるなど「食」をキーワードとしたまちづくりが進められてきました。しかし市民調査の結果では、地産地消を実践していない人の割合が約半数を占めており、世界的にも深刻化する食品ロス問題の解決や食育の推進が急務とされ、それぞれの地域で持続可能な社会を構築していくことが課題であることを授業の中で知りました。私たちは食のまち伊万里で学ぶ高校生として正しい食の循環システムと持続可能なまちづくりを目指し活動を始めました。







【まちづくりフォーラム】

2. 事前調査

私たちは地域のイベントや交流会で意見交換を行いながら、活動の目標を整理しました。私たちがテーマとしたことは、地域一人ひとりが参加できる持続可能なまちづくり、名付けて伊万里サステナブルシティ計画です

3. 実施内容

(1) 地域への発信

①エシカル消費の推進

エシカル消費とは消費者庁が推進する環境に配慮した商品を選ぶ消費活動です。私たちはこれまで授業で学んだソーシャルマーケティングの考え方を参考に、規格外農産物の活用に取り組んできました。これまで販売会でのPRに留まっていましたが、私たちの商品を選ぶことで、地産地消や食品ロス削減につながることを強調するため、情報の見える化に取り組みました。消費者が一目見て分かるようなマークを検討しましたが専門的知識がなく作成に行き詰まったため、地域でデザインを専門とされている伊萬里まちなか一番館館長の伊葉様へ相談を持ちかけました。作成では、商品としての統一感を持たせること、誰もが分かりやすいものにすることをポイントにアドバイスをいただき、商品ロゴマークが完成しました。



Food Project Club



F७OD PROJ€CT CLUB

【考案ロゴマーク(改良前)】



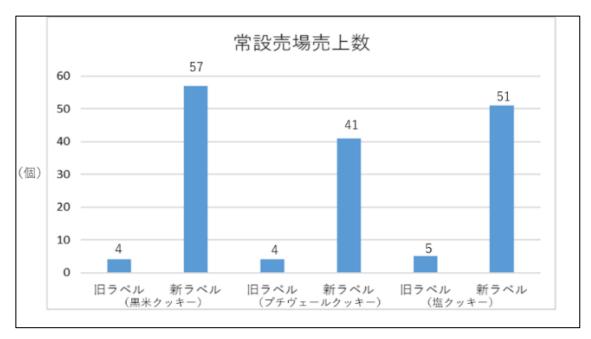




【考案ロゴマーク(改良後)】

まちなか一番館に設置した常設売場の消費動向を分析したところ、同じ商品であってもロゴマークを添付した商品を購入する人が多く、商品選択に影響していることが分かります。また、販売会での反応を見てみると、「自分

の消費活動を見直す機会となった。子どもにも分かりやすい。」など前向きな意見が多く、一人ひとりの意識を変える第一歩となりました。



【売上動向比較調査】

②フードドライブの定着

私たちは令和3年度より地域でのフードドライブを継続的に実施しています。フードドライブとは各家庭で眠っている余剰な食品を回収し、必要とされるところへ提供する取り組みです。これまで伊万里市には、回収した食品を各機関へつなぐ"フードバンク"がなかったことからNPO法人こすもす村と連携し、一人親世帯や福祉施設へ届けるルートを構築してきました。しかしこれまで地域に馴染みのなかったフードドライブは定着が難しく、もっと多くの人へ知ってもらう必要性を感じていました。そこで認知度向上のため、昨年度よりフードドライブに取り組まれているイオン九州株式会社マックスバリュ伊万里駅前店店長田中様へ共同企画を依頼し、令和5年5月5日共同フードドライブを実施しました。効果を検証したところ、来場者の増加だけでなく幅広い年齢層へPRできることが分かりました。来場者からは「スーパーに立ち寄る際に寄付できて便利。」、「自分にもできるSDGsがあることが分かった。」など多くの反響があり、企業とのコラボレーション企画の効果を実感しました。

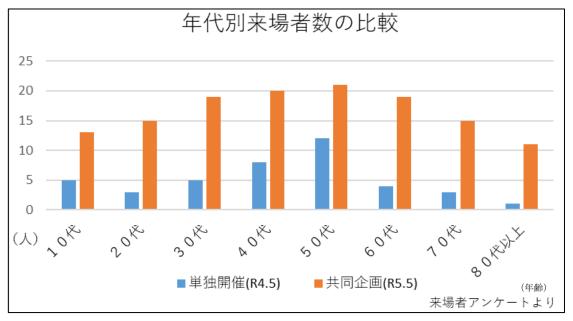


【フードドライブイメージ図】





【共同フードドライブ(令和5年5月5日)】



【来場者の比較】

(2)後世への継承

①児童クラブとの関わり

フードドライブで集まった食品の一部は私たちがお菓子へ加工し、地域の児

童クラブへおやつとして納入しています。また、私たちはこれまで、地元農家や企業と連携した商品開発を行ってきました。食品製造や食品化学の学びを応用し、流通できない規格外食品を新たな商品として製品化し、市内複数の児童クラブへ届けています。また開発の経緯をまとめた紙芝居やパネルシアターを実施し、子どもたちへのSDGs活動へつなげています。児童の感想からは「食べ残しをしないようになった。」と、子どもへのアプローチに確かな手ごたえを感じました。







【児童クラブおやつ製造】

②子ども食堂の立ち上げ

私たちは現在行っている食育活動の幅を広げ、継続的に行う場が必要ではないかと考え、各地で行われている子ども食堂に着目しました。早速NPO法人こすもす村代表牧瀬様へ相談しましたが、現在伊万里市内では子ども食堂は実施されておらず、前例がないとのことでした。そんな時、こすもす村理事を務められている株式会社メリーランド社長山内様より「駅前ホテルのレストラン会場は朝食時以外は使用されていません。是非活用してください。」との助言をいただき、地域に馴染みのある伊万里駅前のセントラルホテルの使用を許可していただきました。使用する食材はフードドライブで集まった食品の他、企業からの規格外食品を活用することとし、地元食材や郷土料理を多く盛り込んだ献立表を作成しました。食品化学の学びを活かして栄養価を算出し、完成した献立表の栄養バランスを検証するため西九州大学健康栄養学部教授林先生へご相談し、「栄養バランスも標準的でとても良いですね。」と高い評価をいただきました。

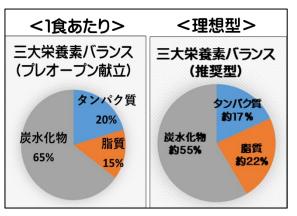




【企業への企画説明・協力依頼】



【栄養価の算出】



【献立案と一般的な推奨栄養バランスの比較】

食育講座	献立	食材提供元
パネルシアター (早寝早起き 朝ご飯)	黒米	市民(フードドライブ)・デンデン農園(伊万里市)
	ぶりの照り焼き	ファームチョイス株式会社(伊万里市)
	玉子焼き	入船農場(伊万里市)、市民(フードドライブ)
	漬物※郷土料理	市民(フードドライブ)
	味噌汁	市民(フードドライブ)、伊万里実業高校
	フルーツゼリー	九州海陸運輸(株)×伊万里実業高校
	食器	伊万里鍋島焼会館

【学びの Kids レストラン献立表(一例)】

私たちはこの子ども食堂の立ち上げにあたり、通常の食支援という目的だけでなく、学びを融合させた場にしたいと考え、食育講座の内容を検討しました。小学生の子どもを持つ親世代へのアンケート調査を行い、要望の多かった意見を基に検討し、講座内容を決定しました。また、使用する食器は伊万里鍋島焼会館へ依頼し、伊万里焼を使用することとし、伊万里の伝統文化

である焼物文化の継承にもつなげていきます。伊万里市長深浦様にも計画を報告し、伊万里市教育委員会や総合政策部広報係へも協力を依頼することで市内の小学生と地域の方々へのPRも可能となりました。そしてついに令和5年7月1日伊万里市初となる学びのkidsレストランがオープンしました。参加した子どもたちからは「朝ご飯の大切さが分かった。」などの感想が飛び交い、SDGsの推進と食育活動を融合させた新たな学びの場として注目され、継続的に実施することが決定しました。



【アンケート調査】

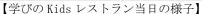


【アンケート結果】

予定	講座内容
第1回(7月)	パネルシアター(早寝早起き朝ご飯)
第2回(8月)	箸の持ち方教室
第3回(9月)	三角食べ講座
第4回(10月)	魚の食べ方教室
第5回(11月)	郷土料理講座
第6回(12月)	パネルシアター(地産地消)

【学びの Kids レストラン食育講座 (予定)】







【食育講座 (パネルシアター)】

4. 情報発信

私たちの活動は新聞やテレビ、ラジオ、情報誌、SNSでのPRを続けています。また、 販売会やフードドライブでは来場者全員にリーフレットを配布し、集まった食品がど のように役立てられているのかを伝える工夫をしました。様々な方法で広く発信して いくことで、各企業からの規格外食品の活用依頼も増加し、情報発信の効果を改めて感 じました。





【リーフレット】

5. 活動成果

- ①エシカル消費の推進により地産地消と食品ロス削減の効果を高めることができた。
- ②企業との共同フードドライブの実現により認知度の向上と定着を図ることができた。
- ③NPO法人や地元企業と協力し、地域の子どもたちへの食育活動を強化することができた。

地域一丸となって取り組む私たちの活動は、第16回佐賀県食育賞を受賞し、農林水産省が主催するディスカバー農村漁村の宝アワードでは全国選定を受け、岸田総理大臣より激励の言葉をいただいた他、昨年開催されたイオンエコワングランプリでは文部科学大臣賞、エシカル甲子園では徳島県議会議長賞、全国SBP(ソーシャルビジネスプロジェクト)アワードでは特別賞を受賞し、地域活性化やまちづくりを専門とされている皇學館大学教授岸川政之先生からは「地域の課題を地域で解決するシステム作りが素晴らしい」と高い評価をいただき、これまでの活動が十分効果的であったことを実感しました。



【イオンエコワングランプリ (東京都)】



【エシカル甲子園 2022 (徳島県)】



【サガテレビでの紹介(R5.7.1 放送)】



【広報誌への掲載】

6. 今後の課題

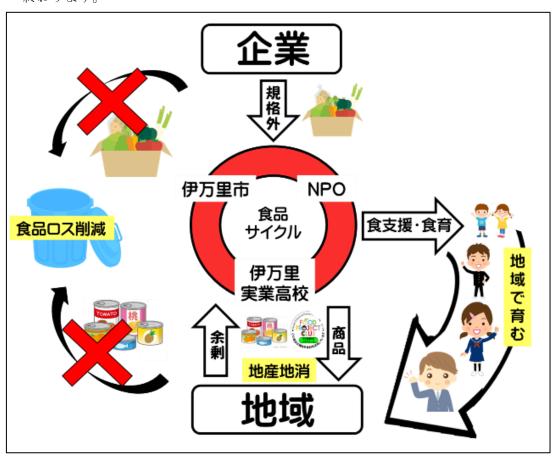
- ①地元規格外食品を使った商品開発の継続。
- ②フードドライブの常設スペース設置の検討。
- ③学びの kids レストランの効果的な展開方法の検討。

7. おわりに

私たちの活動は事業系食品ロスだけでなく、地域一人ひとりが意識することで、家庭系 食品ロスの削減にも効果的であり、地域未来を担う子どもの食育につながる新しい食循 環システムとして注目されています。

これからも地域に根ざした農業高校生として食のチカラでサステナブルなまちづくり を目指して私たちの挑戦は続きます。

終わります。



【伊万里サステナブルシティ計画(イメージ図)】